

Ⅱ－3 インクジェット機器の技術動向

山中 大樹*、岩松 正*

1. 調査方法

2021年4月から2022年3月までの各社のニュースリリースやテクニカルレポートなどを情報源としてインクジェット機器について調査を行い、技術動向をまとめた。発売された製品だけに限らず、開発中の製品についても各社のニュースリリースや展示会での情報などを参考にして、注目すべき内容をピックアップしている。

インクコストについては各社が記載している数値をそのまま用いている。

2. オフィス向け機器

ビジネス向けの機器では本年度も大容量タイプのインクタンクを搭載したモデルが増加する傾向が続いている。また、コロナ禍の影響でテレワーク需要が継続しており、ビジネス文書に向いている顔料インクの展開が各社で見られた。

CAD・ポスター・大判グラフィックス市場向けの機器では高速化・広色域化・操作性の向上などの改良が図られている。

他にも、HPがPageWideによるオフィスプリンター市場から撤退するという報道があり、米国HP Inc.のホームページでは商品ページへの掲載もなくなっている。国内では販売終了を確認できていないが、業界変容の動きの一片であり、今後の動向を注視したい。

2.1. キヤノン

ビジネス向けのA4複合機として、特大容量タンク「GIGA TANK」を搭載した「GXシリーズ」3機種を新たに展開した。2021年5月に2段給紙カセットでFAX機能搭載の「GX7030」と、1段給紙カセットでコンパクト

な「GX6030」のカラー複合機2機種を、2022年3月に「GX6030」よりさらに本体の高さを約16mm小型化した「GX5030」を発売した。

「GIGA TANK」の搭載により、インクコストはA4モノクロ文書1ページあたり約0.8円、A4カラー文書1ページあたり約2.2円（普通紙使用、標準モード時）を実現している。ブラックインクボトル（別売り）1本分の容量でA4約9,000ページ、カラーインクボトル（シアン/マゼンタ/イエロー、別売り）の場合はA4約21,000ページの大量印刷が可能としている（エコノミーモード時）。

全色で新開発の顔料インクを採用しており、小さな文字や両面印刷でも鮮明で裏写りが少なく、印字部にマーカーを引いてもにじみにくいため、書き込むことの多いビジネス文書に適しているとしている。窓付き封筒やポスター、ラベル紙などの多様な用紙にも対応している。本体の横幅のスリム化により、店舗のカウンターや受付内のデスクなど限られたスペースにも設置できるとしている。

プロダクションCAD市場向けには、新たに「TZシリーズ」を展開し「imagePROGRAF TZ-30000 MFP」を、またCAD市場・ポスター市場向けには「TXシリーズ」6機種を2020年5月に発売した。

「imagePROGRAF TZ-30000 MFP」は「imagePROGRAFシリーズ」最速となる1分間に4枚の高速プリントを実現している。スリープ状態からのウォームアップ時間を大幅に短縮し、スリープ状態からの復帰後、A1横サイズの普通紙図面を最速約19秒で印刷可能としている。さらに出力図面を最大100枚まで積載でき、本体上面から自然な姿勢で取り出せる「上部排紙トレイ」や、同トレイへの排紙時において、印刷中もロール紙

を交換できる業界初の「ストップレスロール紙交換システム」などの新機能を搭載している。これらにより、印刷に要する作業負荷やダウンタイムを削減し、カラーやモノクロの大量の図面を速く、効率的に出力することができるとしている。

「TXシリーズ」の6機種「TX-4100/3100/2100/4100 MFP/3100 MFP/2100 MFP」は5色顔料インク「LUCIA TD」により、高精細な図面の印刷、普通紙や光沢紙への色鮮やかなポスター印刷など、多様な印刷用途や用紙の適性に応じた高画質プリントを可能としている。また、1分間に約3.2枚の高速プリント(A1横、普通紙図面、最速印刷設定)を可能とし、2018年1月に発売した従来機種「TX-4000/TX-3000/TX-2000」と比較して、約23%の高速化を実現している。

大判グラフィック市場向けには、水性顔料蛍光インクを世界で初めて搭載し、鮮やかな色彩や蛍光色表現を可能とする「GPシリーズ」を新たに展開し、特色インクを含む10色インクと蛍光ピンクインクを搭載した「GP-4000/2000」、5色インクと蛍光ピンクインクを搭載した「GP-300/200」の計4機種を2021年12月に発売した。

高発色グラフィックやインパクトのあるポスターなど付加価値の高い大判プリントを実現し、ビジネス領域の拡大や大判プリントの内製化に貢献するとしている。パステルカラーや蛍光色を収録した米国パントン社の色見本帳「PANTONE PASTELS & NEONS GUIDE Coated」において、世界で初めて「PANTONE-calibrated」の認証を取得しており、カバー率は「GP-4000/2000」は97%、「GP-300/200」は85%である。

2.2. 日本 HP

自宅での仕事や学習の印刷に最適な大容量インクタンクを搭載したインクジェット複合機「HP Smart Tank」シリーズ6機種「HP Smart Tank 6005/6006/7005/7006/7305/7306」を2021年11月に発売した。

プリンターに最大2年分のインクを搭載しインクの都度購入や交換の手間を大幅に削減している。黒インクボトル1本でA4用紙約6,000枚、カラーで約8,000

枚の大量印刷を可能としており、インクコストはA4モノクロ文書1ページ当たり約0.3円、A4カラー文書1ページ当たり約0.9円と低ランニングコストを実現している。黒はにじみにくい顔料インク、カラーは鮮やかに発色する染料インクを採用している。

グラフィックス市場向け大判プリンターとしては、「HP DesignJet Z9+ Pro」を2021年9月に発売した。プロフェッショナルな写真品質の印刷と、高精度で色鮮やかな地図の作成を可能にするとしている。

「RGB HP Vivid フォトインク」を採用することでPANTONE色域の93%を再現できるようになり、前世代よりも色域が26%向上している。高精細ノズルアーキテクチャー「HDNA」のプリントヘッドやデュアルドロップ技術などの追加機能によって、ライト系のインクなしでも明瞭なディテールと鮮やかなコントラストによる印刷を実現できるとしている。

2.3. 理想科学工業

「ORPHIS GLシリーズ」のラインアップとして、「ORPHIS GL9730/9731/9730 PREMIUM/7430」の4機種を2020年12月に発売した。「ORPHIS GL9730/9731/9730 PREMIUM」は毎分165枚機で、「ORPHIS GL7430」は毎分140枚機である。「ORPHIS GL9730 PREMIUM」は大容量給紙ユニットを標準搭載している。

「ORPHISシリーズ」では、水分を含まない速乾性に優れた油性顔料インクを採用しており、水分で波打つなどの用紙変形が無いという点に関しては、水系インクよりも有利であるとしている。今回新たに開発したインクは、従来よりも色域を拡大したことで、より滑らかに階調を表現できるとしている。また、文字や写真が混在した原稿で写真の再現性を向上する新機能をプリンタードライバに搭載している。

2.4. セイコーエプソン

ビジネス向けインクジェットプリンターの新商品として、全色顔料インク、A3ノビサイズ対応の「PX-S6010」を2021年6月に発売した。従来機種「PX-S5080」から、A4カラー文書約12ipm、モノクロ文書約25ipmに

印刷スピードを向上させている。全色顔料インクを採用し、印刷部の上からマーカーで線を引いてもにじみにくく、こすれにも強いいためビジネス文書にも安心して利用できるとしている。

A4サイズ対応の大容量インクタンクを搭載したエコタンク搭載モデルは、3機種4モデル「EW-M754TW/TB/EW-M674FT/EW-M634T」を2021年11月に発売した。「EW-M754TW/TB」は、顔料・染料2本のブラックインクを含む、合計5色インクである。A4カラー文書が約3.0円(税込)という低印刷コストのため、インク代を気にすることなく家庭のテレワークや自宅学習で快適に使用していただけるとしている。4.3型のワイドタッチパネルを搭載して操作性を向上させるとともに、自動排紙トレイを新たに追加して使い勝手の向上を図っている。

「EW-M674FT」は、ADFを搭載しファクスも対応するオールインワンタイプで、「EW-M634T」は、プリント、コピー、スキャンができる複合機タイプである。

従来からセイコーエプソンはインクジェット技術としてインク吐出にピエゾ方式を採用しているが、印字プロセスに熱を使わない「Heat-Free Technology」と銘打って、TCOの低減と環境性能に優れていることを改めて訴求しているのが印象的である。

2.5. ブラザー工業

A4インクジェットプリンター「PRIVIO」の新製品として、大容量インク「ファーストタンク」シリーズのラインナップ強化や、スマホ操作メインの新コンセプトモデルなどの12機種の発売を2021年9月から順次開始した。

「ファーストタンク」シリーズのJ4000モデル「MFC-J4440N/J4540N/J4940DN/DCP-J4140N」の4機種では、カラーを染料インクから顔料インクに変更し全色に顔料インクを搭載したことで、普通紙に文字やグラフがくっきり鮮明に印刷できるようになり、在宅勤務で増加するビジネス文書に適した印刷品質を実現したとしている。

「ファーストタンク」シリーズのエントリーモデル

「DCP-J1200N」には顔料ブラック・染料カラーインクを搭載しているが、本体側のボタンは電源やコピー開始など極めてシンプルにして、メインの操作は新スマホアプリ「Mobile Connect」で行うようになっている。

「標準モデル」シリーズは「DCP-J926N-W/B/MFC-J739DN/DWN/MFC-J939DN/DWN/MFC-J904N」の7機種で従来機種より印刷スピードを約1.5倍向上させ、A4モノクロは約12ipmから17ipm、A4カラーは約10ipmから16.5ipmを実現している。これらの「標準モデル」も新スマホアプリ「Mobile Connect」に対応している。

「Mobile Connect」は会員プログラム「Brother Online」と連携で会員限定のプレミアム機能が使えるようになっており、「Brother Online」アカウントと連携することで、外出先からも印刷できる「リモートプリント」や「お知らせ機能(プッシュ通知機能)」、ワンタッチでスキャンデータをスマホに送れる「スキャン to アプリ」が新たに使用できるようになっている。

3. 商業印刷向け機器

商業印刷においては、バリアブル印刷やオンデマンド印刷が可能なインクジェットの特性を活かして、オフセットの置き換えを狙う高速枚葉機が主流である。小森コーポレーションはLanda社の「Nanography」技術を採用した機種の販売を開始しており、キヤノンも2022年4月から「VarioPrint i300」の後継機種の国内販売を予定している。

3.1. 小森コーポレーション

フィールドテストが続けられていた「Impremia NS40」の受注を2021年4月から開始した。Landa社の「Nanography」技術を採用した機器の販売としては国内初となる。6月には北京で開催された「China Print 2021」で、中国のArtron Art Group社と基本合意を締結し中国初の「Impremia NS40」導入となった。印刷速度はB1サイズ毎時6,500枚で、4色+コーターと7色+コーターの2モデルが準備されている。紙厚は0.8mmまで対応しておりパッケージ印刷やディスプレイ製品

の作成が可能である。また、Nestle オーダーやFDA などの欧米諸国での厳しい食品関連安全基準もクリアしており食品パッケージにも使用可能である。今後も成長が見込まれる多品種小中ロット、即納が求められるパッケージやディスプレイ、POP などのジョブにおいて、その圧倒的な生産性・収益性で顧客の事業拡大に貢献できるとしている。

29 インチ対応の UV インクジェット「Impremia IS29s」の販売を2021年4月に開始した。従来機種「Impremia IS29」をアップグレードして特殊原反への対応力を強化しており、白色不透明（PET/PP/合成紙）、アルミ蒸着紙、色紙/エンボス/キャンパス、半透明ブラといった用紙にも印刷ができるとしている。オフセット印刷の色を再現する KOMORI カラーマネジメントシステム「K-カラーシミュレーター2」と連携することで、デジタル印刷機でもオフセットと同等の品質で生産できるとしている。

3.2. SCREEN グラフィックソリューションズ

印刷本紙校正用インクジェットプリンター「Proof Jet F1100AQ」のラインアップにパッケージモデルを追加し2021年7月から販売を開始した。「Proof Jet シリーズ」のハイスピード自動化モデルとしては、2019年8月から商業印刷モデルを販売していたが、新たにパッケージモデルをラインアップに追加したものである。

パッケージモデルは、1,100mm×800mm、厚さ1.2mmまでの用紙に対応し、C、M、Y、Kに加え、オレンジ、グリーンのインクを標準で搭載している。またオプションでホワイトインクが準備されており、透明PETやアルミ蒸着紙を活用した印刷物の校正や、ニスインクによるクリアニスの再現も可能としている。

3.3. ミヤコシ

連続紙インクジェットプリンター「MJP20EXG」を2021年8月に発売した。「MJP シリーズ」のコンパクトタイプで、設置スペースは全長8,110mm（Roll-to-Roll構成時）という、クラス最小の設置スペース設計を実

現している（ワンタワー、ターンバー無し、両面フルカラーの構造）。また、新開発の「ミヤコシオンザフライ RIP」を搭載し、次世代の後加工機との連携を実現するとしている。印刷速度は、最大印刷解像度1,200dpi×1,200dpi で毎分80m、1,200dpi×600dpi では毎分160mである。

3.4. キヤノン

「varioPRINT iX 3200/2100」を2022年4月1日より発売すると発表した。米国では2020年に既に発売されていたが、国内でも販売を開始するようである。

2017年9月に発売された「VarioPrint i300」の後継機種で、新たに開発された「ポリマーナノインク」を採用し、高精細な1,200dpi ヘッドを採用し、印刷速度を毎分320枚に向上させている。また新たにインクを乾燥した後の剥がれを抑制する「フュージョンユニット」を搭載しており、瞬間的にスチーム加熱を行い、用紙のストレスを抑制しながらインクをしっかりと定着させることで、より鮮やかで美しい発色を実現している。さらに、ノズルの目詰まりを抑止する「用紙・印刷機温湿度管理機構」や、内蔵のクリーニングクロスでヘッド表面を自動でメンテナンスすることにより、オペレーターのメンテナンス負荷を軽減する「インクジェットヘッド自動清掃機構」などの新機構を搭載し、高速出力に加えダウンタイムを抑制することで、印刷工程全体の生産性向上に貢献できるとしている。

4. 産業印刷向け機器

産業印刷は、デジタル化による成長分野であることから、各社より継続的に新機種が発表されている。またCOVID-19の流行により、実店舗に足を運ぶよりもオンラインでの買い物が増加していることから、包装やパッケージ用途で産業用インクジェットプリンターのニーズが増加している。一方で、バリューチェーンの乱れによって半導体や原材料の供給が制約されたことで、発売時期が延期されるものが散見された。

産業印刷の用途は、デジタル化と多様なニーズの増加より、今後も成長が見込まれることから、各社より

印刷制御技術やインクの改良による様々な素材への対応、高画質化、高速化、大面積化などが提案されている。

4.1. セイコーエプソン

商業・産業向け大判インクジェットプリンター「SureColor」シリーズの新商品として、6色インクを搭載し、粒状感の少ない美しい高画質と高速プリントを両立した76インチ対応の昇華転写プリンター「SC-F10050H」を2021年7月に発売した。CMYK（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）の基本インクセットに加え、ライトシアン/ライトマゼンタもしくは蛍光イエロー/蛍光ピンクのどちらかを購入時に選択できる。インクは、ポリエステル生地への印刷を目的として開発された昇華転写用の捺染インクで、乳幼児が触れる繊維製品に印刷したもので安全であることの証であるエコパスポート認証を取得している。プリントヘッドは、4.7インチの「PrecisionCore マイクロ TFP プリントヘッド」を6個搭載しており、実用画質の3.1Passモード（600dpi×600dpi）で約99m²/時という高速プリントを実現している。

商業・産業向け大判インクジェットプリンター「SureColor」シリーズ新商品として、B0 プラス対応モデルの「SC-T7750D」と「SC-P8550D」を2022年3月に発売した。「SC-T7750D」は、全色顔料インクの「UltraChrome XD3 インク」を搭載し、新規レッドインクの採用により、POP やポスターで求められる鮮やかな赤色を再現するとしている。「SC-P8550D」は、全色顔料インクの「UltraChrome PRO 6 インク」を搭載し、グレーインクを採用により、滑らかな階調性と低粒状性を実現するとしている。肌の発色、暗部の粒状性や再現性など、高い表現力で従来9色機同等の高画質印刷が可能であるとしている。両機種の本体は、奥行き50センチの薄い箱型形状で、設置面積を従来機から約25%削減している。

業務用フォトプリンター「SureLab」シリーズの新商品として、従来機「SL-D850」と同等のコンパクトサイズと軽量を保ちながら、新たにカット紙の自動両面

プリントに対応した「SL-D1050」を、2022年3月に発売した。本体サイズは、両面ユニット付きで幅460mm、奥行438mm、高さ424mmのコンパクトボディを実現している。また重量は約23.1kgと軽量なため、機器の移動も簡単で、写真の大量プリント業務に十分なL判480枚/時の高速プリントを実現している。

高生産性・高画質でラベル印刷業界に貢献を続けている「SurePress」シリーズの新商品として、UVインク搭載モデル「L-6534VW」を2022年2月に発売した。

「PrecisionCore ラインインクヘッド」搭載で、600dpi×1,200dpiの高速・高精細プリントを実現し、ヘッドに合ったインクを作り込むことで画質と安定性を実現できるとしている。高遮蔽性の白インク搭載で透明基材やメタリック基材へのカラー印刷が可能である。また独自の「デジタルバーニッシュインク」を活用すれば、グロス調やマット調のスポットニスを追加でき、付加価値の高いデザインにも対応できるとしている。

「デジタルバーニッシュインク」の代わりにオレンジインクを選択でき、広色域化が可能としている。インクはFCM（世界標準レベルの欧州食品接触材規則）にも対応し、食品向けラベルにも安心して使用できるとしている。

インクジェットデジタル捺染機「Monna Lisa（モナリザ）シリーズ」の新商品として、高生産性と高い印捺品質、安定稼働を実現した「ML-64000」を、2022年3月に発売した。最新の「PrecisionCore プリントヘッド」を64個搭載し、標準モードで毎時774平方メートル（600dpi×600dpi-2Pass）の高速印刷で、高い生産性を実現した Monna Lisa シリーズのフラッグシップモデルである。各プリントヘッドチップの波形を個別に制御する「Dynamic Alignment Stabilizer (DAS)」技術により、高精度かつ高密度のドット配置を行い安定した印捺品質を提供し、8色のインクを左右対称に配列することで双方向印捺時と同じ順序で色を重ねられるため色ムラのない仕上がりを実現するとしている。またベルト送り距離を自動検出し送り量を調節する「Accurate Belt Position Control (ABPC)」技術と併せ、高い生産性を維持しながらもグラデーションや

精緻で複雑な幾何学模様も、高品質で美しい印捺を実現できるとしている。

4.2. ミマキエンジニアリング

高速プリントで生産性を大幅に向上する LED-UV 方式大型フラットベッドインクジェットプリンター「JFX600-2513」と「JFX550-2513」を2021年4月に発表した。従来機種「JFX500-2131」から搭載ヘッド数を大幅に増やすことで、高効率なプリントが可能になり、「JFX600-2513」で約300%、「JFX550-2513」で約150%の生産性向上が期待できる。また、搭載可能な色数も4色から6色へ対応し、豊富なインクバリエーションにより表現力がアップし、これまで以上にクオリティの高いサイングラフィックの製作が可能である。

インクを硬化させるUV照射にLED光源を用いた小型フラットベッドUVインクジェットプリンターの新機種「UJF-3042MkII e」と「UJF-6042MkII e」を2021年9月に発表した。「UJF-3042MkII e」が幅:300mm×奥行:420mm、「UJF-6042MkII e」が幅:610mm×奥行:420mmである。両機は画質向上を図るため、ドットの配置位置をコントロールする「MFD2 (Mimaki Fine Diffusion 2)」処理に対応しており、粒状感を低減した美しい画質を実現しているとのことである。安定した高画質プリントを可能にする自社独自の「NCU (Nozzle Check Unit)」、「NRS (Nozzle Recovery System)」、「MAPS4 (Mimaki Advanced Pass System4)」など従来機の各種機能を継承している。UVインクの密着性を向上させるインクジェットプライマー「PR-200」を含め、UVインクのバリエーションを豊富に取り揃えており、アクリルなどの樹脂、皮革、木材に加えて金属、ガラスなど多様なメディアへのプリントが可能であるとしている。

フラットベッドUVインクジェットプリンターの新製品「UJF-7151 plusII」を2021年9月に発表した。カラーグロス機能による新たな表現、1,800dpiの高精細プリント、そして自社独自の「MDL (Mimaki Device Language) コマンド」によるワーク搬送の自動化機能が用意されている。これら各種機能が搭載された「UJF-

7151 plusII」は、クラストップレベルの生産性と安定性に加え、高精度・高画質を備えた従来機である「UJF-7151 plus」から、さらに品質と安定性を追求し、高精度・高画質・高速化を実現したUVインクジェットプリンターのハイパフォーマンスモデルである。ヘッド構成を従来機の6ヘッドから2ヘッド増の8ヘッドに拡張しており、インクセットに合わせて、ヘッド構成を変更できる。4色カラー構成には従来機と比べて最大190%の印刷スピードを実現した4色ダブルのインクセットが用意されており、ライトシアンとライトアゼンタが含まれた6色カラー構成ではより繊細な色表現が可能となるとしている。

4.3. ローランド ディー・ジー

デスクトップサイズのインクジェットプリンター「VersaSTUDIO (バーサスタジオ) BN シリーズ」の新製品「BN-20A」を2021年10月に発売した。手軽に導入できるように、ビジネスプリンターとしての高い基本性能と使いやすさはそのままに、インクタイプをCMYKの4色に絞っている。専用インクの「ECO-SOL MAX 2 (エコソル・マックス・ツー)」は、ポスター用紙はもちろん、紙以外の塩ビシートやPETフィルムといったさまざまなメディアへの印刷に対応し、広告・看板製作のプロフェッショナルから高い評価を受けている印刷設定「True Rich Color」の採用により、ビビットで正確なグラフィック表現が行えるとしている。

広告・看板製作の大判インクジェットプリンター「TrueVIS (トゥルービズ) シリーズ」の新製品として、フラグシップモデルとなる8色インク対応の「TrueVIS VG3-640/VG3-540」と、幅広い顧客に受け入れられる価格帯を実現した4色インク対応の「TrueVIS SG3-540/SG3-300」、計4機種を2022年3月に発売した。フラグシップモデルの「VG3 シリーズ」では、新しいインクセットCMYKcLmOrGrを採用している。特色のオレンジやグリーンによる、色域の広いビビットなカラー表現と、ライトシアンやライトマゼンタによる粒状感を軽減したより滑らかな色合いを可能にしたとしている。また、製品本体の優れた色再現性と「TR2 イン

ク」の広い色域を最大限に引き出す新開発の印刷設定「True Rich Color 3」は、ひとつの作品の中で鮮やかさと自然さの相反するふたつが共存する感動の表現を実現しているとのことである。

4.4. 武藤工業

「XpertJet シリーズ」として、1.3m幅メディア対応のエコソルベントインクジェットプリンター「XPJ-1341SR Pro」を2021年9月に発売した。「VJ-1324X」の後継機で、同等機種比較で最小サイズのコンパクトなボディに最新の画質技術と、最高印刷速度41.9m²/h（「VJ-1324X」比150%）を実現し、手頃な価格でコストパフォーマンスを追求する新モデルである。

「XpertJet 1641SR」の後継機種となる1.6m幅メディア対応のエコソルベントインクジェットプリンター「XpertJet 1641SR Pro」を2022年1月に発売した。

「XpertJet シリーズ」から、1.3m幅メディア対応の水性昇華インクジェットプリンター「XpertJet 1341WR Pro」を2022年3月に発売した。搭載する昇華転写インクには、コストパフォーマンスの高いMUTOHの純正インク「DH21」を採用している。優れたメディア転写効率を兼ね備え、少ないインク消費量で高濃度の発色を実現するとしている。インクの速乾性が薄紙や軽量の転写紙への印刷を可能にし、優れた吐出性能と色安定性が高品質な出力を提供するとしている。

新型プリントヘッドである「AccuFine」は、従来ヘッドよりも大型化、高密度化、着弾精度が飛躍的に向上し、高速時でもバンディングの少ない高品質なベタ印刷を提供するとしている。

4.5. 日本HP

HP サーマルインクジェット技術と水性インクを搭載する「HP PageWide」は、段ボール市場向けにライナー原紙に印刷するプレプリントと、段ボールシートに直接印刷するポストプリントの両方に対応した。プレプリント対応の「HP PageWide T1195i Press」および「HP PageWide T470S Press」、ポストプリント対応の「HP PageWide C500 Press」は、鮮やかなグラフィッ

クスとオフセット品質を実現するほか、食品用パッケージの基準にも準拠している。

プレプリント対応段ボール用デジタル輪転印刷機「HP PageWide T1195i Press」に搭載された新たなプリントヘッド技術にはサーマルコントロール機能が組み込まれており、プレプリントシステムの性能が向上し、運用コストの削減につながる一方で、一貫性のある高品質な印刷を高速で提供できるとしている。また、給紙機能の向上により、幅広いライナーとアプリケーションをサポートする。

「HP PageWide」の持続可能性を高めるため、「HP PageWide C500」のデジタル段ボールパッケージ用インクの試験を完了し、家庭および産業システムにおける堆肥化の認証を取得した。堆肥化が可能な製品を認証するグローバルな独立機関であるドイツのDin Certcoは、「HP PageWide C500」用「HP CV150 インク」の堆肥化プロセスに適合マークを付与し、インクが堆肥化プロセスに害をもたらさない添加剤であることを確認した。「HP PageWide C500」の堆肥化可能認証により、コンバーターとブランド企業は、需要に応じた数量の印刷、在庫の無駄の削減、環境への全体的な影響の軽減が可能になるほか、段ボールパッケージの持続可能性の認知度を向上させ、循環型経済に寄与することができるとしている。

禁 無 断 転 載

2021年度「ビジネス機器関連技術調査報告書」“Ⅱ－3”部

発行 2022年6月
一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）
技術委員会 技術調査専門委員会
〒108-0073 東京都港区三田三丁目4番10号 リーラヒジリザカ7階
電話 03-6809-5010（代表） / FAX 03-3451-1770